

# 戦後七十年の想いを歌に

岡 部 学 さん

父が戦争で尊い命を祖国に<sup>(1)</sup>捧げ戦没し、母と私が遺族となりました。戦争の記憶はわずかながらで、母の実家（福田町福田南）の東にある山のふもとの防空壕<sup>ごう</sup>、その中で西の空に爆撃機（B29）が飛び、爆弾が落ちてくる光景、そして戦争後の幼少の頃に戦争の遺留品<sup>(2)</sup>を見たことぐらいです。

私は遺児として母の実家で何不自由なく育てられましたが、中学生になると我が家では無いと、真剣に将来のことを考えるようになり、叔父の農業、母の内職の手伝いをしながら勉強しました。高校生になると自分の家を建てたい夢を持ち、一生懸命でした。卒業後、水島の会社に就職し、交代勤務で5年間働きながらも大工さん2人の下手間をし、悪戦苦闘の2年間でやっと生活の出来る状態の新居ができました。皆さんに感謝感激でした。

今までの想いを作詞しました。

「平和な時よいつまでも」

一 .	生まれた時は	戦争だ	今も脳裏に	あの空が
	思い出させる	爆撃機	おさな心に	おそろしく
	何が起きたか	わからない	平和な時よ	こないかな
二 .	子どもの頃は	腹ペコだ	みんな食べたよ	芋ごはん
	忘れられない	母の味	遊び疲れて	しかられて
	いつも枕を	抱いて寝る	平和な時よ	早く来い
三 .	大人になった	現実には	日夜仕事に	明け暮れて
	夢を追いかけて	ひたすらに	やっと叶えた <sup>かな</sup>	僕の家
	父の遺影に	手を合わせ	平和な時よ	いつまでも

平成18年4月より、母に「遺族会(福田)<sup>(3)</sup>のことを引き継いで。」と頼まれ、何もわからないまま交代して遺族会の皆さまにいろいろ教わりながら行事に参加し、お世話もさせてもらっています。平成25年より近くの水島緑地福田公園内にある「平和の鐘」を鳴らして黙とうし、二度と戦争のない平和な世界を願いに行っています。その想いを作詞しました。

「平和の鐘を鳴らそうよ」

一． 高く澄んでる 青空に 突然すさまじい 空襲が  
炎の手が上り 焼け野原 怖く悲しい 戦争は  
ああ 平和の鐘を 鳴らそうよ 鳴らそうよ

二． まるでならくの あの時代 多くの命が 失われ  
苦しくつらい ことばかり 今の幸せ 感謝して  
ああ 平和の鐘を 鳴らそうよ 鳴らそうよ

三． 二度と戦争 しないよう 子や孫たちへと 伝えよう  
希望に満ちた 明日のため 世界平和を 願いつつ  
ああ 平和の鐘を 鳴らそうよ 鳴らそうよ  
ああ 平和の鐘を 鳴らそうよ 鳴らそうよ

---

1 祖国...先祖から代々住み続け、自分もそこで生まれた国。

2 遺留品...死後に残した品物。遺品。

3 遺族会...戦没軍人の慰霊、遺骨収集、遺族の福祉をおもな目的とする団体。